

第一次導入校の具体的な検討の進め方について

第一次導入校・市町村教育委員会・県総合教育センター・県教委の実務担当者によるワーキンググループを第一次導入校ごとに設置し、入学生徒の選考方法（適性検査・面接・調査書）、導入のねらい、教育内容について、具体的・実務的に検討を進める。その結果を部会に報告し検討を行う。（ワーキンググループの設置、検討開始時期：2022年9月）

1 検討内容

区 分	検討のポイント、内容
(1) 中高一貫教育導入のねらい、教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第一次導入校が考える高校の教育内容や、求める児童像、育成を目指す資質・能力等を踏まえ、併設中学校の教育内容を検討。（総合的な学習の時間、学校設定教科、少人数・習熟度別指導 等） ※高校の教育課程や、内進生と外進生の関係（混合時期等）は、第一次導入校が、各校の特色を踏まえて別途検討する。（併設中学校の教育課程は、2023年度から検討）
(2) 併設中学校の教員配置	<ul style="list-style-type: none"> ・ 併設中学校に必要な分掌を踏まえ、教員構成はどうするか。 ・ 併設中学校の教員構成に基づき、中学校教員と高校教員をどのように配置するか。 ※具体的な教員配置は、県教育委員会、教育事務所、市町村教育委員会等の関係者で個別調整する。 ※中高一貫校勤務の採用枠の設定は、県教育委員会で検討する。
(3) 入学生徒の選考方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中高一貫教育導入のねらい等を踏まえ、適性検査や面接をどのようにするか。 ・ 調査書をどのような扱いとするか。調査書の様式や項目等をどうするか。 ・ 抽選によるメリット・デメリットを踏まえ、抽選を導入すべきかどうか。 ※適性検査の詳細な内容は、県教育委員会と県総合教育センターで別途検討する。
(4) 併設中学校の通学区域	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の教育内容や地理的要件などを踏まえ、県外枠を導入すべきかどうか。
(5) その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 給食・部活動などの在り方についても検討する。

2 ワーキンググループの構成員

区 分	構成員
第一次導入校関係者	高校の教務部・SSH・国際理解コース関係教員（主任レベル） 市町村教育委員会指導主事・地元中学校教員（主任レベル）
県総合教育センター	所員
教育委員会関係課	課長補佐以下職員
教育委員会高校改革室	室長補佐・主査・指導主事・主事 等

3 ワーキンググループの進め方

- ・ ワーキンググループは、各校ごとに、率直な意見交換を行う形で開催する。
- ・ 各校のワーキンググループの意見を集約し、愛知県教育委員会高校改革室において、具体的な内容を取りまとめる。
- ・ 高校改革室が取りまとめた具体的な内容（各校のワーキンググループで提案された意見を含む）を、部会において提示し、検討する。